



先生～っ！それ、私たちがやりたい！



先生方が行う授業が、更なる「学習者主体の授業」となるよう、以下のポイントを参考に、児童生徒に思い切っ
て委ねることを増やしてみませんか。

児童生徒の思いと先生の発話（例）

期待される効果

留意点

導入（授業開始10分が目安）



やる気が出たり、学び始めたくなくなったりするよう
なきっかけがほしい。

- ・ 前の時間の学習と比べて、違うところはどこかな？
（具体物等を提示して）何か気付いたことはあるか
な？どのようなことを調べてみたいかな？
- ・ （失敗例等から）なぜ、うまくいかないのかな？



今日の授業のめあてとそれを達成するための計画
や方法を自分たちで考えたい。

- ・ この前の授業では、どんなことが分かったかな、そして、今日は、どんなめあてを立てたいかな？
- ・ めあてを達成するために、これまでの学習や経験から、
どのような予想ができるかな？また、どのような手順
で、誰と、どのように取り組みたいかな？
- ・ 今日の学習の終わりにどのようなことができるよう
になっていきたいかな？



友達と話し合ったり、活動したりする中で考
えを広げたり、深めたりしたい。

- ・ ○○さんの考えに付け加えることがありますか？ま
た、異なる考えはありますか？
- ・ 隣の友達がどのように考えているか、互いの考えを
共有して、更に深く考えてみましょう。



自分で気付いたり、友達と確認したりしなが
ら大事なことを身に付けたい。

- ・ 教科書やノート等の大事だと思うところに印を付けま
しょう。また、印を付けた理由も考えましょう。
- ・ 自分が印を付けた所を友達と比べてみましょう。
- ・ 用語の意味を、教科書等を活用しながら、まとめて友
達に紹介しましょう。



自分で、又は友達と協力して、この時間のま
とめを書きたい。

- ・ 今日学んだことを、○○と△△という言葉を使いなが
ら、自分でまとめましょう。
- ・ 今日のめあてに対して、どのようなことが分かった
かを自分の言葉で表現しましょう。



今後につながるアイデアやよりよい学び
方について考える時間がほしい。

- ・ できるようになったことや解決できなかったこととそ
の理由を考えてみましょう。
- ・ もっと知りたいこと、今後役立てたい学び方につい
て、考えてみましょう。
- ・ 今日の学びが、これからの学習にどのように生かして
いけるかを考えてみましょう。



終末（授業終了前10分が目安）

- ・ 学習意欲が高まる。
- ・ 本時（単元）の学習の
意義に気付きやすくな
る。
- ・ 知的な好奇心がかき立
てられる。

- ・ 扱う内容や活動
は、児童生徒の実
態を踏まえる。
- ・ 前時までの学習
内容との違いに気
付けるようにす
る。

- ・ 学びに対する当事者
意識や学びを展開する
主体性が生まれる。
- ・ 目標達成に向けた計
画性を育むことができ
る。
- ・ 自己決定・自己選択す
ることで、内発的動機付
けが高まる。

- ・ めあての表現
は、児童生徒の言
葉を生かしながら、
必要に応じて対
話を通して設定
する。
- ・ 学習の内容や方
法を確認すること
で、安心して学習
に臨めるようにす
る。

- ・ 他者の考えとの比較、
検討により、自分の考
を一層広げたり深めたり
できる。
- ・ どのような視点で物事
を捉え、どのような考
え方で思考していくのか
という見方・考え方を広
げることができる。

- ・ 自分の考えの根
拠や理由を明確に
して対話する場を
設定する。
- ・ 個々の考えを広
げ深めるために、
話し合う過程を大
切にする。

- ・ 自ら情報を整理する
ことで、学習内容が定着
しやすくなる。
- ・ やり取りを通して、お
互いの理解の誤りや不
足、大事な所に気付ける
ようになる。

- ・ 子供たちの言葉
を引き出したり、
つないだりしなが
ら、知識の理解の
質を高める。
- ・ 確実な定着に向
けて、短時間で反
復する機会を取り
入れる。

- ・ 学習内容の意義や既習
事項とのつながりを意
識できるようになる。
- ・ 主体的な学びが更に深
まり、「知識の受け手」か
ら「学びの創り手」へ
変わっていくことがで
きる。

- ・ 学習内容の理解
を深めるために、
自分の言葉で論理
的に表現できるよう
にする。
- ・ 友達とまとめを
交流する時間も設
ける。

- ・ メタ認知を高め、自己
調整力を育むことがで
きる。
- ・ 自分に合う学び方
を見付けることがで
きる。
- ・ 家庭学習マイゴール
チャレンジや次時の学
習につなげることが
できる。

- ・ 学んだこと、友
達との関わり等の
視点を提示する。
- ・ 振り返りを共有
して、自己肯定感
を育み、新たな気
付きにつなぐ。

各学習過程において、児童生徒の実態に応じた効果的なICT活用を検討してください。